

昨日は、日立で講演会「東海第二原発と避難計画」がありました。講師は茨城大学名誉教授で県民センター代表の田村武夫先生。主催は「再稼働ストップ日立市民の会」で会ができて一周年を記念したものでした。

東海村のすぐ隣りに位置する日立市は原発メーカーとしても世界的に有名な日立製作所の本拠地で、ほとんどの市民は日立関係の仕事をしている身内や友人がいるため、原発反対の声が非常に上げづらい土地柄。そんな中で根気強く駅前署名活動などを続けているそうです...

講演の内容は、まず現状に至る経過の概要説明があり、今年3月に県の防災会議で30km圏内15市町村の避難計画が最終決定され、その内容と問題点が田村先生から次々と報告されました。

あつ、あれか...

私も一度県の防災会議を傍聴したことがあったのですが、その時渡された資料を見て、何だこれ？こんなものでいざ大量放射能放出事故が起きた時に避難できるわけなかつぱよ★と憤慨したことを思いだしました。

「パブリックコメントすら実施しないのですよ。決定事項は県のHPに掲載してあるから、と言うだけで...」

田村先生は県が責任回避の姿勢であることを指摘します。そりゃそうだ。こんなできないものを国から作れと言われて、県にしてみたらいい迷惑だよ。避難計画など作れるわけが無い。東海原発の周辺30km内に一体どれほどの人間が住んでいると言うの？

97万人。

一人畳一枚として計算しても茨城県内に収容できるのは45万人だけ。あとの52万人は県外に行ってもらうしかない。でも栃木・群馬・福島・埼玉・千葉だって、はいそうですか、と簡単に引き受けることなどできない。しかも埼玉県は静岡からも避難民受け入れを要請されバッティング★それで橋本知事は新潟にもお願いし始めたということです。

大洗に住む私は鹿嶋・神栖に行けと言われ、車で10分の実家に住む親は水戸だから古河や下妻など県西のどこかか、栃木・群馬・埼玉・千葉のどこかに。日立に住んでてひたちなかに仕事に行ってる人なら、自分は土浦以南、下手すりゃ埼玉・千葉。家族は福島。一家離散など県にとってはどうでもいいことなのかも....

大体、こないだの東日本大震災の時に、街はどうなったかもう忘れてしまったのだろうか？信号は消え、道は裂け、それでもみんな譲り合いで交通事故がほとんど起きなかったことが世界で絶賛されました。しかしあの時はまだ原発爆発していませんでした。これがもし大量の見えない悪魔が襲ってくる状況だったら、そんなに余裕こいていられるでしょうか？

ひたちなか市や東海村は最悪です。なぜなら地震で那珂川と久慈川の橋は通行不能になったので、西に向かう以外に選択肢はありません。高速道路なんかいつ開通できたんでしたっけ？もし東風だったら、おいつめられる袋のネズミでちゅ〜。

田村先生は2段階避難計画の問題も指摘します。原発爆発などの重大事故が起こったらまず5km圏内の人がただちに避難します。5～30km圏内の人はずっと放射線量が上がって来ても決して逃げたいいけないということらしい。自分勝手はいけません。5km以内の人々が迷惑します。とにかく地震で歪んだり壊れたりして隙間風がピューピュー吹き込んでくる家に閉じこもり、放射能のピークが過ぎるのをじっと待って、それから順番に落ち着いて避難に入る、というのが県の計画です。

しかしもし重大事故が原発では無くて、近くの高レベル廃棄物貯蔵施設だったらどうでしょう。例えばテロに狙われるとか。もう戦争できる普通の国なのですから、以前のように平和ボケできませんよ。

東海には原発から出たゴミを再処理して残った高レベル廃棄物がまだドロドロに溶けたまま、大量に

冷却保管されています。1立方センチあたり数十億ベクレルの猛毒が400立方メートル以上。もしこれが爆発事故を起こしたら福島がかわいく思える惨状を現出すると世界中の人々が危惧しています。全然心配してないのは地元民。ほとんどの人がそんなヤバイものがこんなに近くにあるなんて、全く知りません。だって学校じゃ教えてくれないもん★

もしそれが大量放出されたら、ピークが過ぎるのを待ってからなんて悠長なことを言ってる余裕は無いでしょう。家で待てと言うことは死を待てと言ってるようなものです。

つまり事故の大きさなど関係なく、距離で一律に線を引くことは全然意味が無いということ。田村先生のお話を聞いていて、もし避難を複数段階に分けるといふなら、距離ではなく、空間線量の数値によって決めるしか無いのではないかと、思いました。東海村周辺市町村にはたくさんのモニタリングポストが設置してあるから☆

このようにその実効性が疑われる県の避難計画ですが、もう県の仕事は終わったから、あとは市町村でうまくやってくれ、という感じで、市町村の方が困っているというのが現在の状況だということです。

しかし東海村だけは積極的に避難計画作りを進めほぼ完成した模様。逆に隣のひたちなか市は「できるわけない!」と策定しようとさえしないようです。他の市町もあまり進んでいないそうですが、鹿児島川内の例を見ると、避難計画などお構い無しで避難計画の範囲をたった10kmに狭めたり、安倍政権の庇護の元で強引に再稼働しているんで、そのうち避難計画は東海村と県のものだけでいいなんて話が出てくるかもしれません●

ですから、今のうちに「住民の安全な避難計画が策定できなければ再稼働を認めない」と市町村に表明・確約させるのが一つの有効な対策になると思われます。

また、安全協定締結の対象を周辺14市町に拡大させることが急務でしょう◎（現在は県と東海村だけが認めれば再稼働できます。）1年前に東海原発が再稼働の安全審査を申請した時に、「安全協定の周辺市町村への拡大」は交換条件だったはず。福島原発災害が周辺市町村に及ぼした被害の深刻さを目の当たりにして、全15市町村が強く求めており、日本原電も了承したはずです。『安全協定拡大はやるから、安全審査申請を認めてくれ』って言った記憶があるのですが、あれから1年、再稼働のための国の安全審査の方は着々と進んでいるようですが、安全協定拡大の方は全く進んでいるという話を聞きません！

話が違う、なんて彼らには当たり前？ アベコベ軍団だから当然さ。

高橋靖水戸市長も一年前は少しは男らしくてカッコよかったのに、あの時言ったこともう忘れちゃったの？「東海第二発電所安全対策首長会議」って名前、再稼働審査が始まったら全然聞かなくなっちゃったな〜。あなたも実はアベコベ一味ですか？

田村先生が代表を務める県民センターなどは県内の他の団体との共同を進め、県との懇談をしたりしているということでしたが、声をあげる住民がもっと増えないと...、とこぼしていました。

講演の後のディスカッションも盛り上がり、原子力施設が異様に多い茨城県では、避難計画は東海第二原発のみならず、例えば大洗町の原子力施設でも半径10kmの避難計画の策定を国から求められている、という話を初めて知りました。ガーン！全然知らなかった...

帰り道、村松の高レベル廃棄物が保管されてるあたりから距離を測ってみました。ジョイフルホンダやケーズデンキあたりで4km、ひたちなか市民球場あたりが5kmで湊大橋手前で10kmでした☆

拡散大歓迎です!